

益田市の歴史文化の特色（全7回）

最終回

民衆の生活とともにあり、 今も息づく益田の芸能

■ 岡 市文化財課

☎ 31・0623

益田市内では、神楽をはじめ、地芝居^{じしばい}、囃子田^{はやしだ}（田植え囃）、獅子舞など、個性豊かな芸能が民衆の生活とともにあり、それは現在も人々の暮らしとともに息づいています。

島根県の無形民俗文化財に指定されている三葛神楽^{みかすら}はゆつたりとした六調子打ち切りという形式で、石見地方の六調子系の祖型を伝承しています。

高津川流域では地芝居も盛んでした。中垣内町の白岩神社の廻り舞台は県内においても例が少なく、「うつつた一座」の舞台として実際に使われていることも含め、貴重です。

豊作を願う神事から鑑賞芸能へと派生した囃子田が市内各所に継承されており、道川や内谷のものは、それぞれ特徴は違うものの、古い型を残しています。また、土佐^{とさ}本田植哥草紙^{ほんたうえぐさ}は、中国山地の田植歌の古い形を記録したものとして

注目されます。

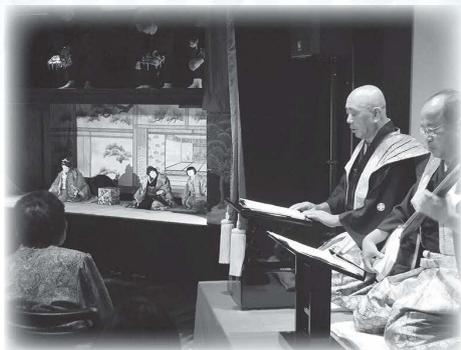
獅子舞も古い獅子頭が各地に残されており、各地の神社で興行されてきたと見られます。

益田糸操り人形は明治時代に益田に伝わったものですが、^{よつ目}田と呼ばれる手板を使う操演方法が古い形態をとどめているとされ、近年は海外公演を成功させるなど、注目が高まりつつあります。

これらの芸能は、歴史上のものではなく、現在も市民の生活の娯楽として息づいていることが何よりも貴重です。

※本連載および特集では紹介できませんでしたが、このほかに祈りと甲いをテーマにした関連文化財を設定する予定です。

※1月号からは、「益田市の文化財の紹介」を掲載します。



益田糸操り人形の公演の様子